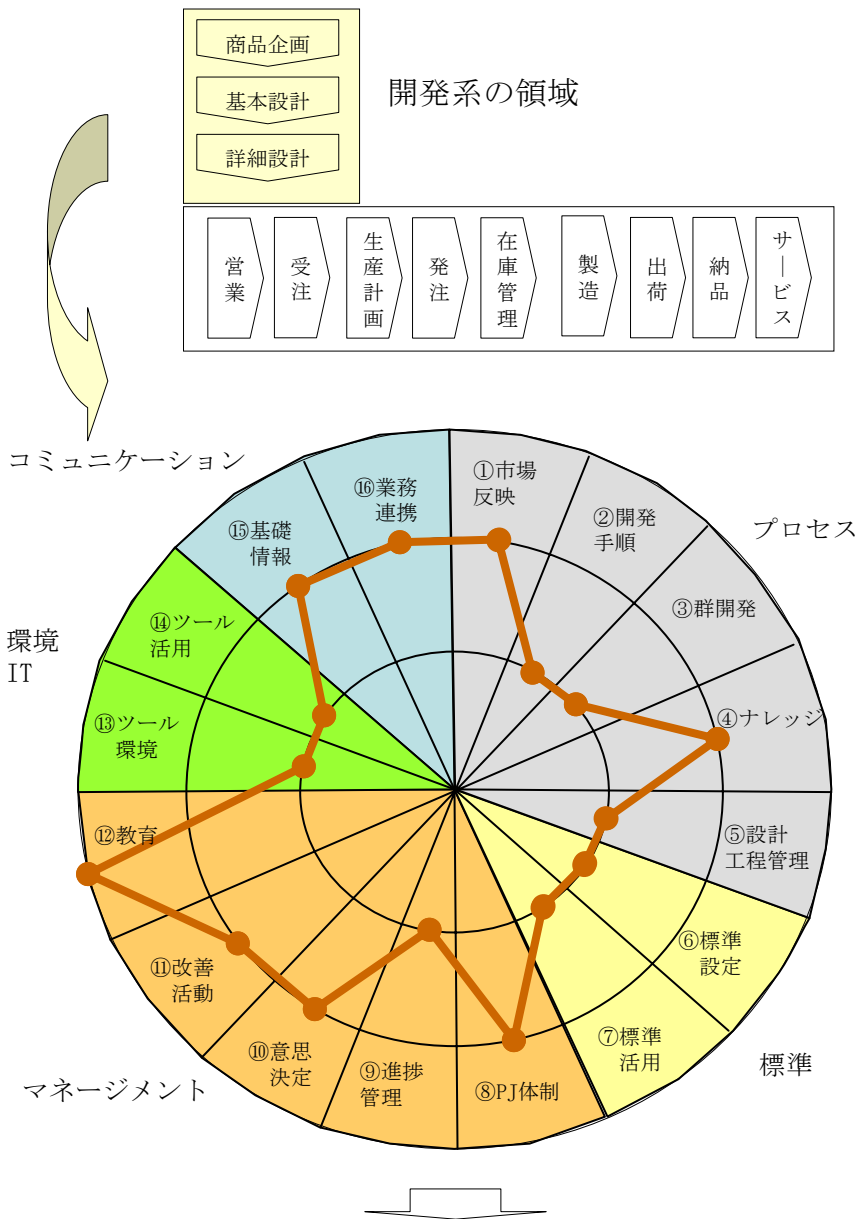
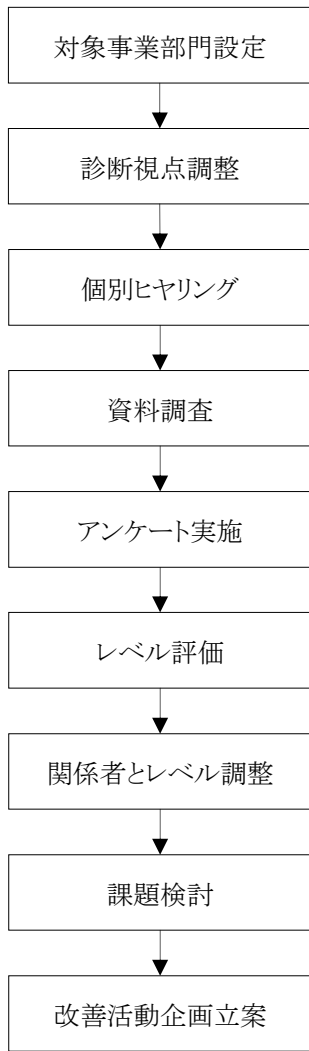


1.2 設計プロセスの診断と改革方向付け

設計開発業務改革は多面的な視点から現状業務に含まれる問題認識と適切な改革方向を探る必要があります。そのためには、体系的な漏れのない視点を基に、現在の実態をヒヤリング調査し、客観的な評価・指摘と、実務担当者の期待の双方から問題・課題を整理する必要があります。

またこの際に、関係者全員のヒヤリングを行うことは難しいので、アンケート等も並行して行い、幅広い調査を行なうと良いでしょう。この際に、業界で行なわれているベンチマーク等も活用すると、自社の定量的な位置付け、強み弱みが把握できるので改革活動に有効です。例、電機業界でのDPAMコンサルタントによる診断活動は、あるべき姿のイメージや仮説が必要で、それとの比較で問題を明らかにすべきです。当然コンサルタントはこの時点で解決方法を仮説しておく必要があります。診断の視点もこの仮説に基づいて作成されるべきで、仮説検証を繰返しながらあるべき姿を追求することが大切です。

展開ステップ



課題例：設計プロセスを速く、効率的なものに見直し、手本とする。それを参考に守れる計画を立案、可視化管理する。さらにそれを共有化するための情報システム整備と環境整備へ